



セーリング

岡田奎樹

×

外薮潤平



PROFILE

岡田奎樹(左) 1995年生まれ。2016年世界ジュニア選手権優勝。**外薮潤平(右)** 1991年生まれ。●2017年に岡田選手と外薮選手はペアを結成。岡田選手が舵と後ろの帆を操り、外薮選手は体重移動と前の帆を操る。結成してからわずか1年、江の島で開催された2018年のワールドカップで日本男子史上初の金メダルを獲得。東京2020大会では男子470級に出場し7位入賞。

世界で通用する選手というのは 一緒だったからこそ分かります

——今の心境を教えてください。

岡田 大会を終えた後は、目標がなくなってポッカリと心に穴が空いた感じはありました。でも今は「パリ大会で金を獲る」という新しい目標が決まったので、ポジティブな気持ちになっています。もうやるしかない、って！

外薮 僕は次のパリ大会をめざさないの、これが最後の大会でした。メダルを獲れずに悔しい気持ちはありましたが、今はこれからどうしようかと模索しています。ただ、セーリングにはかかわっていくので、今後もセーリングの魅力を広げていきたいなとは思っています。

——大会が1年延期となりましたが、モチベーションの維持には苦労しましたか？

外薮 延期が決まったときは「長くなるな……」という感じでしたね。でも、そこで腐らず、自分が大会で活躍している姿をしっかりとイメージして、そのメンタルでもって日々のトレーニングに取り組みました。

——延期の1年間で、強化された部分はどこですか？

岡田 伸びたのは道具への理解です。学生のころはお金がないので与えられた道具で試合をするのですが、オリンピックになるとたくさんの道具をそろえられるので、道具の比較から始めました。道具にも個性があるんです。自分との相性を見極めて選べば、結果も変わってきます。

——試合で印象に残っていることを教えてください。

外薮 今回は無観客だったんですけど、最後のメダルレースの前に、防波堤で日本の方が応援してくれたんです。セーリングは海に出たらペアしかない孤独な競技。そういう声援はすごく力になりました。有り難かったで

す。

岡田 僕は、最後のレースが終わったときに、今まで頑張ってきたこと、乗り越えてきたこと、悔しい気持ちなどで頭がいっぱいでした。そして何より「もう外薮選手と一緒に乗ることはないのか……」という寂しい感情が一気にあふれてきました。気持ちが渦巻くとか……25年生きてきて初めての感情。言葉では表現できない複雑な心境になっていましたね。

——次のパリ大会をめざす岡田選手に、外薮選手は何を伝えたいですか？

外薮 岡田選手は「風読みの天才」ですし、追い風のときのトップスピードの感覚は世界に後れを取っておらず、逆にリードしていると思います。岡田選手は、今後も活躍をしてくれる素晴らしい選手。それだけの実力があることは、ずっと一緒に乗ってきたからこそ断言できます！

——今のコメントを聞かれてどう思いますか？

岡田 有り難いです。僕はオリンピックを見据えた活動を始めたのが遅く、最初は誰もペアを組んでくれなかったんです。そんなときに外薮選手が現れてくれた。僕は気持ちの浮き沈みが激しいタイプなんですが、外薮選手はいつもメンタルがフラットで、すごく頼もしくて。外薮選手を基準にして自分のメンタルを客観視できたので、僕にとっては「心のパイ」のような存在でしたね。

外薮 そう言ってもらえてうれしいですね。これからはペアではなく、別々の道を歩いていくことになりますが、お互いにもっとセーリングを普及させていきましょう！

岡田 もちろんです。これからもよろしくお願いします。



セーリング

吉田愛

×

吉岡美帆



PROFILE

吉田愛(左) 1980年生まれ。大学時代に全日本学生女子選手権3連覇。2017年に男児を出産。**吉岡美帆(右)** 1990年生まれ。高校1年生からセーリングを始め、長身を生かした力強い加速が自慢。●2013年にペアを組む。リオ2016大会では5位入賞。2018年にデンマークで行われた世界選手権では金メダルを獲得。東京2020大会では女子470級に出場し7位入賞。

大会後に4歳の息子に言われた言葉に思わず号泣して……

——今回の大会でセーリングは普及したと思いますか？

吉岡 もちろんです。無観客試合ではあったんですが、江の島でセーリングが開催されたことで、認知度は上がったと思います。会場に向かう沿道とかでも、いろんな方が手を振ってくれましたので、それは感じました。

——大会が1年延期されましたが、モチベーションの維持には苦労をしましたか？

吉田 突然1年の延期になり、世間的にも「本当に開催できるのかな？」という状況でしたが、一選手としてやれるのは「いつ開催されてもベストな状態をキープすること」だと思って準備をしていました。私の場合は、産後で落ちた体力を戻すことを特に意識していましたね。

——印象に残っている試合を教えてください。

吉岡 1日目と2日目の結果が悪かったので、3日目以降は頑張らないといけない、厳しいポジションでした。3日目は風が弱い日だったのですが、ずっと練習してきたスタートに力を入れたおかげで、上位を取って次につなげることができました。あの一戦が大きかったですね。

吉田 私の場合は、最後のメダルレースですね。上位が崩れないとメダルの可能性がない中、何とか結果を残そうと最後にダウンウインド（風下に向かうとき）で走り抜けて順位を上げられたのが良かったです。そのおかげで入賞できましたので。

——試合以外で印象に残っていることはありますか？

吉田 私は4歳の息子がいて、試合のときは妹に子どもを預けていました。まだオリンピックのことは理解していないみたいですが、毎日テレビ電話で息子が「頑張って

ね」と言ってくれて、その言葉が力になりました。

——大会期間中のお子様とのやりとりで、特に印象に残っている言葉はありますか？

吉田 最後の試合が終わった後なんですけど「ごめんね、メダルを獲れなかったんだ」って息子に謝ったんです。そしたら「ママは頑張ったんだからいいじゃん」ってまじめな顔で言ってくれて……それでもう、私は号泣しちゃって。やっぱり子どもは、親の背中を見ているんですね。親が頑張る姿は子どももそれなりに感じてくれていたので、これからもそういう姿は見せていきたいと思っています。

吉岡 私も、家族が全力で応援してくれました。メダルレースの日は、我が家に家族や親戚が集まって、全員で応援してくれたみたいなんです。レースが終わってからテレビ電話をしたら「頑張っている姿で勇気付けられたよ」って家族に言われたんです。メダルには届かなかったんですけど、応援してくれたのがうれしかったですね。

——県民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

吉岡 たくさんの方々が応援してくれて、それが力になりました。ボランティアの方も、それ以外の方も、終わった後でも声を掛けてくださいました。次も全力で頑張ろうと思います。本当にありがとうございました。

吉田 私は世界中の海を見ましたが、江の島の海はセーリングをするには理想的な海です。こういう場所で、私も小さいころから海に触れてきたので、今の自分があると思います。これだけ楽しいセーリングなので、少しでも多くの人に興味を持ってもらいたいですね。今後とも応援をよろしくお願いします。



柔道

高藤直寿



PROFILE

高藤直寿 1993年生まれ。パーク24株式会社所属。7歳で柔道を始め、12歳で地元を離れ東海大相模中学に。以降、大学まで東海大で柔道を続け、国内外の大会で優勝。リオ2016大会柔道男子60kg級では銅メダル獲得。2大会連続出場となる東京2020大会では念願の金メダルを獲得した。

1日1日を大切に 勝ち続けたい

——大会が1年延期され、モチベーションはどう維持されましたか？

高藤 大会も減り、練習も思うようにできず大変だった面もありますが、金メダルを獲るためにやるしかないという思いで日々の練習に臨んでいました。リオ大会では投げられて天井を見たので「天井だけは絶対見ないぞ」という気持ちでこの5年間やってきました。

——その中で、日本での開催は力になりましたか？

高藤 そうですね。外出規制などのルールの中でも全日本柔道連盟が環境を整えてくれましたし、100%の実力を出せると思っていました。また、もし100%出せなくても勝てるほどの練習を積みました。稽古でも自分自身をとことん追い込み、どんな状況でも戦える自分を作り上げたので、何の不安もなく試合に臨めました。

——日本の金メダル第1号となりました。過酷な延長戦もありましたが、特に印象に残っていることは？

高藤 無観客ということもあり、応援の声や歓声ではなく、相手の息遣いや畳を擦る音、道着の衣擦れの音が聞こえていたことです。日本武道館の真ん中でそれを感じられたのはすごく貴重な体験ですし「ああ、柔道しているな」と実感しました。今回のオリンピックに出た人しか感じられないことですし、練習を重ねてそこまでのどり着いたのかなと思います。柔道をやってきて良かったと改めて感じられた瞬間でした。

——これまでの集大成のような試合だったのですね。試合以外での思い出は？

高藤 選手村は設備も良く綺麗で過ごしやすかったです

ね。ただ、ほかの国や競技の選手との交流はできるだけ持たないようにしました。今回のオリンピックは特に、多くの方が目に見えないところで努力して下さったおかげで開催できた大会です。ボランティアの方が頑張っておられるのを見て、僕らが中途半端なことではできないと改めて思いましたし、大会が終わるまで感染対策は細かく気を配っていました。

——大会を終え、今の心境は？

高藤 今は気持ちも落ち着き、次に向けてどうやるかを考えているところです。パリ大会まで2年。1日1日を大切に東京のとき以上の強さを手に入れ、金メダルを獲りたいです。柔道はオリンピックが最高峰の舞台なので、そこで勝ち続けるのが今後の目標です。

——中学からずっと東海大で柔道を続けておられます。

高藤 中学1年で東海大の寮に入ったので、神奈川に住んだ時間が一番長くなりました。東海大で良かったのは、中・高で結果を出すだけではなく、世界で戦える選手を育てるという方針の下で良い指導を受けられたこと。神奈川はレベルが高く県大会突破だけでも大変で、そんな環境に身を置けて良かったです。いつも高校の大会があった岸根公園の県立武道館には良い思い出も苦い思い出もあり、横浜線に乗ると思い出します。

——県民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

高藤 東京2020大会は、たくさんの応援があって優勝することができました。次のオリンピックでも、神奈川の母校で鍛えていただいて金メダルをめざしていきたいと思います。応援よろしくお願いします！



バスケットボール

町田瑠唯

×

宮澤夕貴

×

オコエ桃仁花



PROFILE

町田瑠唯 (中央) 1993年生まれ。スピードが武器のポイントガード。東京2020大会で最も輝きを放ったオールスターファイブの1人に認定。**宮澤夕貴 (右)** 1993年生まれ。スリーポイントシュートが得意なフォワード。**オコエ桃仁花 (左)** 1999年生まれ。力強いドリブルが特徴のパワーフォワード。
●3人が所属する富士通レッドウェーブは川崎市を練習拠点としている。

お世話になった方々に 恩返しことができました

——今の心境を教えてください。

町田 目標は金メダルだったのですが、女子バスケ界初のメダル獲得となりうれしいですし、何より、バスケを多くの人に知ってもらえた良い機会になったと思います。——大会に向けて意識してきたことは何ですか？

町田 私はガードなので、速いテンポで、速いバスケにする展開を常に意識していました。特に準決勝のフランス戦の出だしは苦戦しましたが、途中から自分たちのリズムに持ち込むことができましたね。

宮澤 私はスリーポイントの練習をずっとしていて、試合にあわせてコンディションの調整をしていました。

オコエ 私の役割は大きな選手の動きを封じることなので、そこを意識していましたね。

——今回の銀メダル獲得は、何に力を入れてきたから実現できたと思いますか？

町田 私はチームワークだと思います。今回、大会前に大黒柱のエースが怪我で出られなくなるトラブルがありました。誰に頼ることもなく、一人ひとりが自分の役割を果たして、チームとして機能した結果だと思っています。

宮澤 私も同じで、チームワークと自信です。このチームは、試合を重ねるにつれてどんどん自信を持ち、強くなっていきました。最初は正直「大丈夫かな？」という不安もありましたが、強化試合をしたあたりからチームとしての歯車がグッとハマった感じはありましたので。

オコエ 私はチームワークと目標ですね。金メダルのために全員で向かっていたので、練習の質も高くなり、試合に出る人も出ない人も全員で必死にチームのために動い

た。ベンチからも声がかかるまで応援をされていて。明確な目標とチームに貢献する姿勢が良かったんだと思います。

——メダルを獲ったときの感想を教えてください。

宮澤 うれしいという気持ちはもちろんなのですが、それ以上に、周りの人たちが喜んでる姿を見られたのが良かったですね。母が喜んでくれたり、恩師から連絡を頂いたり、メダルを獲れたことでお世話になった方々に恩返しできた気がしました。

——大会期間中、印象に残ったことを教えてください。

オコエ 私は、父の母国であるナイジェリアと試合ができたことです。実は、七夕のときに短冊に「私は日本人として、日本代表としてナイジェリアと戦い、しかも勝つ」と書いてお願いしておきました。その願いが、本当に実現できました。あれはうれしかったですね！

宮澤 前回のリオ大会では、ウサイン・ボルト選手（陸上短距離）に会えて良い思い出になったので、今回はルカ・ドンチッチ選手（バスケ）に会いたいと思っていました。その願いがかない、選手村でドンチッチ選手に会うことができ、女子チームの皆と一緒に記念写真を撮りました。一流選手に会えるのは、オリンピックならではの楽しみです！——県民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

町田 皆さんの応援のおかげで、銀メダルという結果につながりました。ありがとうございます。現在、バスケットボール女子日本リーグ（Wリーグ）が開催中ですので、まずは富士通レッドウェーブで優勝すること。その先にはパリ大会がありますので、今回の結果を超えるようにこれからも頑張りたいと思います。応援よろしくをお願いします。



サーフィン

都筑有夢路

江の島からのパワーをもらい そのおかげで結果を残せました

——今の心境を教えてください。

都筑 今回の心境としては「メダルが獲れてうれしいな」って気持ちが一番。あとは今回、初めてサーフィンがオリンピック競技に採用されたので、周りの人たちにサーフィンの魅力を知ってもらえたことが良かったです。影響力が全然違う。オリンピックの力って、本当に凄いですね。——大会が1年延期となりましたが、モチベーションの維持には苦労しましたか？

都筑 最初は苦労したんですが、すぐに気持ちを切り替えました。オリンピックに出る選手は、世界のトップ選手ばかり。そういう人たちを相手にするのなら「1年という時間を使ってさらにパワーアップしてやろう」って、意外とポジティブな感じでしたね。

——その1年間で、特に強化したことは？

都筑 やっぱり、技術面が一番伸びたと思います。いろんな波の状況に対応できるようになり、一つ一つの技のクオリティも上げることができました。

——印象に残っている試合を教えてください。

都筑 1回戦の試合です。私にとってはそれが、オリンピックの初試合。緊張しすぎて周りが見えなくなって、反則負けをしてしまったんです。敗者復活戦があったので戻ることができたんですが、そのときに気持ちをリセットしました。むしろ、1回戦での失敗があったおかげで良い緊張感で試合に臨めて、そのリズムのおかげで結果的にメダルに手が届いたという気はしますね。

——ほかに、何か印象に残っていることはありますか？



PROFILE

都筑有夢路 2001年生まれ。藤沢市育ち。木下グループ所属。11歳からサーフィン始める。2017年には世界で転戦を重ね、2019WSLワールドジュニア選手権優勝。2019年には、スペインで開催されたチャンピオンシップで日本の女子選手として初優勝を飾り、世界ランキングを一気に上げた。東京2020大会では銅メダルを獲得。

都筑 決勝戦の日は台風の影響で、朝に海を見たら波が大きく荒れていたんです。昨日までの波とは全然違う。この大波だと、昨日まで使っていたサーフボードでは合わない。そう思って、スタッフの方に急遽「いつものサーフボードよりも、一回り大きいものはありますか？」って頼みました。大きいボードはあったんですが、1回も乗ったことがない新品で。試合前に海で調整してみたら、「これならいけるかも！」って。その後の試合は全部、その新しいボードで勝負をしましたね。

——神奈川の海の魅力を教えてください。

都筑 とにかくロケーションが素晴らしいところ！そこが大好きです。小学生から中学生まで、毎朝、学校に行く前に地元の鵜沼海岸に足を運びました。江の島から太陽が昇り、海がキラキラしている。学校終わりには、富士山の向こうに太陽が沈んでいって、景色は夕日で真っ赤に染まっていました。季節や時間によって海の見え方が全然違う。そういうところがステキです。

——神奈川の海はずっと都筑選手を見守っていたと思います。今回、メダリストになったことで、今まで守ってくれた海に対して、何と伝えたいですか？

都筑 「海の神様ありがとう！」って叫びたいですね。

——県民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

都筑 私は鵜沼海岸の海で育ち、江の島からパワーをもらい、そのおかげで今回のオリンピックでも結果を残すことができました。これからも神奈川の海からパワーをもらって、その力を持って海外でも活躍したいと思っています。これからも是非応援をよろしくお願いします。



パラトライアスロン

米岡聡

地元開催という「地の利」と 「人の利」が生きた大会でした

——今の心境を教えてください。

米岡 大会が終わってもう数か月経つので、気持ちは落ち着いてきました。もちろん、メダルを獲ってうれしかった気持ちはありますが、既に心は次の目標に向かっています。

——次の目標とは？

米岡 僕はもともとマラソンをやっていたので、ブラインドマラソンの方にしばらくは集中して取り組みたいと思っています。今回、パラリンピックを経験したことで、物事を大きなスパンでとらえられるようになりました。今はこういう時期なのでこの練習をしよう、と自分で考えてそれを監督やコーチに相談できるようになったので、そういう取組み方の姿勢はかなり変わったと思いますね。

——今回は日本開催でしたが、それについては？

米岡 地元開催ということで「地の利」と「人の利」を生かせたと思います。日本の夏は、特有の蒸し暑さがありますよね。自国の僕たちはしっかりと準備ができた。しかも、僕一人ではなく、監督、コーチなどがかわってくれて、科学的なトレーニングを積むことができたので、そういう意味で「地の利」と「人の利」が生かされた大会でした。

——米岡選手は、試合中に多少時間を使っても身体に水を掛けていたのが印象的でした。あれが対策ですか？

米岡 そうですね。暑さ対策の一つです。運動をすると、身体の深部温度がどうしても上がるんです。それを効率良く冷やすにはどうすればいいかをいくつも試して、感覚が良かったものを採用しました。冷却のために2～3



PROFILE

米岡聡(左) 1985年生まれ。清川村出身。三井住友海上火災保険株式会社所属。10歳のときに網膜はく離を発症、20歳からランニングを開始。ブラインドマラソンとパラトライアスロンの両競技で活躍。同じ会社のトライアスロン部に所属の椿浩平選手(右)がガイドとなり、二人三脚で疾走。東京2020大会では銅メダルを獲得。

秒時間をロスしても、後で20秒、30秒のプラスになって返ってくるという計算があったので、そこは計画どおりでした。幸い試合当日は暑くなったので、準備をしていた僕は有利だったのだと思います。

——試合で印象に残っていることはありますか？

米岡 ゴールした瞬間ですね。ガイドをしてくれた椿選手のことや苦しかったことなど、メダルが獲れると分かった瞬間からいろんな思い出が湧き上がってきて、本当に報われた気持ちになりました。あの瞬間の感覚は、一生忘れることはないでしょうね。

——ゴール後のインタビューでは椿選手も涙を流して喜んでいましたね。

米岡 椿選手は僕のためにずっと厳しいことを言ってくれて、彼のおかげで僕は頑張れました。そんな人が自分よりも喜んでくれていたことが伝わってきて、お互いに認め合えた気がして本当にうれしかったです。

——県民の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

米岡 僕は神奈川の清川村に生まれて育ち、パラトライアスロンに初めて出た大会も横浜が会場でした。そこから僕のトライアスロン人生がスタートしました。怪我で苦しみ、それでも結果を残せたのも横浜の大会。振り返ってみると、僕の人生を変える分岐点は、神奈川の地が多いです。きっと僕は神奈川と相性が良いと思います。これからもこの地で結果を出したいので、応援をよろしくお願いします。



パラ卓球

伊藤 慎紀

何があるか分からないので 絶対に諦めてはいけない

——今回の大会は1年延期となりましたが、モチベーションの維持にはどのような工夫をされましたか？

伊藤 延期になったのは残念でしたが、パラリンピックは絶対に開催されると信じていました。むしろ、練習量を増やしました。

——練習量を増やして、どの部分の強化に力を入れましたか？

伊藤 フォア(利き腕側の打ち方)です。試合でもそれが上手くいったと思っています。

——大会が日本で開催されたことに対して、どのようなメリットを感じていましたか？

伊藤 移動で飛行機に乗らなくていいし、試合までずっと練習ができるので安心でした。あと、地元で開催するので、知り合いの人たちから応援されました。会社の人たちからも「応援しています!」と言われました。近くで応援をしてもらえるのは、とてもうれしいです。

——試合で印象に残っていることを教えてください。

伊藤 体育館のライトが明るくてびっくりしました。まぶしかったです。

——先ほど、試合でフォアが上手くいったと言われましたが、具体的にはどの試合でしょうか？

伊藤 ポーランド代表のクリスティナ・ウィシャク選手との試合です。

——メダルが確定した準決勝後のインタビューで、伊藤選手は「お母さんにメダルを報告したい」と語り、実際に「すごく頑張りました」と伝えました。そして、お母様からLINEで「すごくうれしい。よく頑張りました」と返信が



PROFILE

伊藤 慎紀 1984年生まれ。鎌倉市出身。CTCひなり株式会社所属。横浜市内や都内で4人のコーチと練習に励んでいる。ラケットの握り方が独特で、バックハンドで不規則な回転を繰り出して、相手を翻弄するプレースタイル。リオ2016大会女子シングルス5位入賞。東京2020大会女子シングルス(C11)で銅メダルを獲得。

あったと聞いています。そのときの心境を教えてください。

伊藤 メダルを獲れたのはすごくうれしかったです。私には、母の存在がとても大きかったです。

——大会を終えて、心境の変化はありましたか？

伊藤 何が起こるか分からないので、絶対に諦めてはいけないと思うようになりました。これからも、さらに頑張ろうと思いました。

——伊藤選手は現在、鎌倉市に住んでいますが、鎌倉の魅力について教えてください。

伊藤 鎌倉にはお寺がいっぱいあります。私は八幡様が大好きです。自然がいっぱいあって、動物もたくさんいます。リスがいることもあります。

——卓球をする空間として、神奈川のどのところが良いと思いますか？

伊藤 大きな体育館がいっぱいあるところですよ。とても良い環境だと思います。

——最後に、次の目標を教えてください。

伊藤 パリ大会のパラリンピックに出たいと思います。応援をよろしくお願いします。



写真：西村尚己/アフロスポーツ



ゴールボール

欠端瑛子

チームメイトと常に話をして チーム一丸で戦いました

——今の心境を教えてください。

欠端 メダルを獲れてホッとはしているんですけど、悔しい気持ちは残っています。準決勝のトルコ戦は上手くやれば勝てる試合でした。自分が狙われて守備が崩されてしまって、あと一步足りなかったですね。

——メダルを首に掛けた瞬間の気持ちは？

欠端 表彰台でメダルを首に掛けたら、ズッシリときて「重いな」って。でもやはり、金を獲りたかったですね。

——大会は1年延期になりましたが、それを維持するためのモチベーションはどうでしたか？

欠端 緊急事態宣言が発令されたときは、体育館が使えなくて、外にも出られなくて……体力面の強化をして調整していた時期だったので、正直、残念な気持ちにはなりました。でも、それは仕方がないこと。次を考えないと。コミュニケーションを増やそうと、感染対策は十分に合宿を何度もしたんです。皆で家族のような時間を過ごせたのは楽しい経験でした。そういう意味では、貴重な思い出が増えましたね。

——延期の1年間を使って、強化した部分は？

欠端 私たちのチームは守りは固いけど、攻撃面に課題がありました。攻撃力を上げるために、コースコントロールとか、選手3人で話し合って練習をしてきました。明らかに変わったのは、自分たちで考えてゴールボールができるようになったことですね。

——では、会話量は増えた感じですか？

欠端 そうですね。かなり増えたと思います。外国人選手と比べても会話がが多く、常に喋っている感じで。もち



PROFILE

欠端瑛子 1993年生まれ。横浜市出身。セガサミーホールディングス株式会社所属。生まれたときから病気の影響で視力が弱く、高校時代からゴールボールを始める。身体を回転させて投げる力強いボールを武器に、日本の得点源として活躍。ロンドン2012大会では金。リオ2016大会では5位入賞。東京2020大会では銅メダルを獲得。

ろん、ベンチからの指示はあるんですけど、それが届かない時間もあるので。1人で戦うのではなく、会話をして3人の頭を使って、皆で一丸となって戦えたことが良かったんだと思います。

——印象に残っている試合を教えてください。

欠端 やっぱり準決勝のトルコ戦。あのバウンドは止めたかった。空中での音が分からなくて混乱してしまって、立て直しが上手くいけば良かったんですけど……。

——試合以外で印象に残っていることは？

欠端 ボランティアさんが「頑張ってください」って声を掛けてくれることが多かったです。選手村から会場までバスで行くのですが、そういう間でも歩くたびに応援されて。会場でも拍手で迎えられる。それはとても力になりました！

——ゴールボールの認知度は上がったと思いますか？

欠端 はい。今までよりもかなり注目されたと思います。

——そもそも、ゴールボールの魅力とは？

欠端 目隠しをすれば健常者でもできるのが特徴で、一言で表現すれば「音の駆け引き」ですね。ボールに入った鈴の音を聞いて試合をするんですが、足音やゴールポストを叩いて音を出して、騙し合いの要素も面白いんです。目を瞑ることで、違う世界が広がるのが魅力ですね！

——県民の皆さんにメッセージをお願いします。

欠端 様々な方から応援を頂き、何とか銅メダルは獲れました。ゴールボールはまだ競技人口が少ないのですが、より多くの方に魅力を伝えたいと思います。これを機会に、興味を持っていただけたらうれしいです！



ソフトボール

山田恵里



PROFILE

山田恵里 1984年生まれ。藤沢市出身。デンソー所属。小学1年生から野球を始め、高校からソフトボールに転向。女子ソフトボールの強豪、県立厚木商業高等学校でインターハイを連覇。アテネ2004大会では銅メダル、北京2008大会では金メダル、東京2020大会でも金メダルを獲得して13年ぶりの連覇を達成。「女イチロー」の愛称を持つ。

人生で経験する大事なことが すべて詰まっている競技

——日本開催についての感想は？

山田 神奈川の地元の人たちに応援してもらったり、元気をもらったりする中で試合だったので、うれしい反面、「これで金メダルが獲れなかったらどうしよう……」というプレッシャーが常にありました。ソフトボールは2008年の北京オリンピックで金メダルを獲得し、今回は悲願の13年ぶりの連覇を達成できました。結果を残すことができ、ホッとしています。

——今回の大会で印象に残ったことはありますか？

山田 やはり、神奈川出身の一人として、地元でオリンピックが開催されて、さらに金メダルまで獲れたということが本当に感慨深いことで、うれしかったです。

——選手村などでの生活はどうでしたか？

山田 ソフトボール選手は試合スケジュールの関係で、開会式の前から選手村に入っていました。そのころはまだ選手村に入っている選手の数も少なかったですし、コロナ禍だったので他国選手との交流自体も少なかったですね。でも、食事がとにかく美味しかったのは覚えています。しかも「ご飯の量をこれくらいにしてください」など、微妙なニュアンスも日本語で話せるので、生活しやすかったですね。

——今回の金メダル獲得者のゆかりの地の郵便ポストを金色に塗り替える「ゴールドポストプロジェクト」の第一号として、山田選手のゆかりの地である藤沢市のポストが金色になりました。どう思われましたか？

山田 金メダルというものを、別の形で残していただいたので有り難かったです。感謝しかないですね！

——大会を終えて、心境の変化はありましたか？

山田 最初にお話ししましたが、日本開催というのは私にとってはすごく大きなプレッシャーだったんです。オリンピックが終了してから1週間くらいは、朝起きた瞬間に「早く試合に行かなきゃ！」という試合感覚みたいなものが全然抜けませんでした。今は落ち着きましたが、それくらい当時は緊張していたんだと思います。心境の変化という意味では、「金メダル獲得」という夢は実現できたので、もう一つの夢である「ソフトボールの普及」に対する使命感が日々増えています。そういう意味では、目標が少し変わってきましたね。

——そもそも、ソフトボールの魅力とは何ですか？

山田 ソフトボールというのは、足が遅い人でも、力が弱い人でも、誰もが楽しめる競技。自分が先頭に立って活躍することもできるし、団体競技なので誰かのサポートをしたり、されたりもできます。試合を通じて仲間を思う気持ちを養うこともできます。ソフトボールは「人生で経験する大事なことがすべて詰まっている競技」だと私は思っています。

——今後の目標を教えてください。

山田 現役生活をどれだけ続けるのかはまだ分かりませんが、ソフトボールの魅力を子どもたちにしっかりと伝えたいですね。目標としては、人の心を動かす存在になること。私の姿を見て「自分も金メダルをめざしたい！」と思える子が増えてくれたらうれしいですね。そのためにも、もっと成果を残して、世間の注目も集めていきたいと思っています。



富田宇宙



PROFILE

富田宇宙 1989年生まれ。日本体育大学大学院/EY Japan所属。3歳から水泳を始め、高2のときに網膜色素変性症が判明。東京2020大会では初出場ながら3つのメダル(400m自由形SII銀、100mバタフライSII銀、200m個人メドレーSMII銅)を獲得。パラリンピック後、ブラインドダンスの全国大会において2種目で優勝、パフォーマーとしてNHK紅白歌合戦にも出演した。

人は違いがあって当たり前 発信していくことが僕の原動力

——日本開催についての感想は？

富田 大会運営のボランティアの方々をはじめ、自治体からの選手強化支援やメディアの広報活動など、これまでにない規模の応援を頂き心から感謝しています。自国開催のエネルギーというのは凄いものがあります。

——大会を終えて、心境の変化はありましたか？

富田 パラリンピックを経験させていただいて、そのパワーを実感しました。私の感覚では日本のパラリンピック・ムーブメントはまだ小さいと感じていたので、どうにか少しでも大きくするために貢献できないかと考えながら活動してきました。ただ、大会に実際に出場して分かったのは、パラリンピックは開会式から閉会式まで一貫して、確実に人の心に強い影響を与えるだけの強烈な力を十分に備えていた、ということです。世界中から様々な特性を持つアスリートが集まって、その多様なあり方を世界に向けて発信する。その姿が人々に与えるインパクトの大きさは、僕の想像をはるかに超えていました。「僕が考えてきたことは杞憂だったかな」とさえ思いましたし、パラリンピックの素晴らしさを僕自身思い知りましたね。

——富田選手はダンスの世界でも活躍されていますが、自分のエネルギーのもとは何だと思いますか？

富田 僕は障がいの後天的に負ったんですが、障がい者という立場に置かれて以降、周りの人が持つフィルターやバイアスというものを感ずるようになりました。障がいのある人、目が見えない人……そう扱われることに違和感があったんです。障がいがあるからといって、必ずしも人より劣っているわけではないし、障がいを一人の人間の特

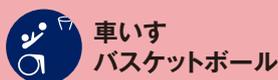
性やアイデンティティと一方的に結び付けるのは少し強引な気がしませんか。世の中には様々な人がいて、様々な価値観がある。それを互いに認識して誰もが自分らしく生きていけることが理想だと思うんです。僕はそういうことを伝えていきたい。そのための手段が水泳であり、ダンスだと考えています。人はそれぞれ違いを持っていて当たり前でしょ、というメッセージを様々な角度から発信していきたい。それが僕の原動力になっていますね。

——大会を振り返ってみて、良かったなと思っていることはありますか？

富田 試合で結果を出したタイミングで、僕がこれまで主張してきた思いをたくさんのメディアの方々の記事として発信して下さったんです。そのおかげで多くの人に自分の考えを伝えることができ、受け止めて下さった方々から「考え方が変わりました」、「勇気をもらいました」、「障がい者に対する認識を改めるきっかけになりました」など、意識に変化が起こったという反響を頂きました。今回、僕一人にできたことはあくまで小さなことですが、少しだけ自分のめざしていたことに近づけたように思います。

——最後にメッセージをお願いします。

富田 僕がしていること自体は一人の障がい者がスポーツをやっている、ただそれだけのことですが、もしその姿が、誰かが夢に向かって突き進む後押しになってくれたらうれしいです。皆さんに少しでも力を与えられる存在になれるとしたら、これ以上にやりがいのある仕事はないと思っています。



鳥海連志
×
古澤拓也



PROFILE

鳥海連志(右) 1996年生まれ。神奈川県在住。リオ2016大会では9位。国際車いすバスケットボール連盟(IWBF)の男子MVP選出。古澤拓也(左) 1996年生まれ。神奈川県出身・在住。スピードのある車いす操作と正確なスリーポイントシュートが持ち味。●ともにWOWOWに所属。パラ神奈川SCでプレーし、東京2020大会で銀メダルを獲得。

延期の1年があったからこそ チームの団結力は増した

——大会が1年延期となりましたが、モチベーションの維持には苦労しましたか？

古澤 延期にはなりましたが、それをポジティブにとらえて、むしろトレーニングに取り組む時間ができたと思うようにしました。その時間のおかげで、結果をちゃんと残すことができたのかなと思っています。

鳥海 僕は人生設計を細かくしていたのでもちろん影響は出ましたが、延期に関して僕がコントロールできることでもないの、すぐに気持ちを切り替えました。自宅での個人練習を増やすだけでなく、試合に向けて皆で集まって練習する時間も頻繁に作ることもできたので、そういう過程が大会へのモチベーションにつながったと思います。延期の1年があったからこそ、チームの団結力は確実に増しましたね。

——印象に残っている試合を教えてください。

古澤 個人的には、メダル獲得が確定したイギリス戦。選手一人ひとりが持てる武器を出し切ったことで、僕たちがめざしていた「ディフェンスから勝つ」という戦略が上手に実現できた試合でした。

鳥海 個々の試合というよりも、一連の試合についてですが、世界のトップ選手が連日活躍をするような状況で、決勝進出するチームが一番試合数が多くなります。それだけ負担は増して、タフなプレーが求められます。そういうつらい状況を経験できたことは、僕の中では確実に大きな財産になっていますね。今後も金メダルをめざしていくうえで、練習をここまでやらないといけない、最終的にはこのレベルにまで到達しないといけない、そう

いう基準を持つことができました。

——鳥海選手は海外選手に負けない強い身体を作るために、日ごろから110%を意識して食べるようにしているとうかがっています。今回の大会中はどうでしたか？

鳥海 世界で戦うためには、フィジカルはとても大事。意識的に食べることは昔から続けています。今回は出場する頻度も多く、つらい試合が続いていたので、正直、食欲が湧かないことが多かったんです。エネルギーチャージをするために、食事以外の時間も必死でゼリーを口に運んでいました。それでも体重維持はきつくて。気持ち的には110%を乗り越えて、150%くらいは食べていた気がしますね。

——古澤選手は試合や練習のことを書いた、バスケノートをつけているとうかがいました。銀メダルを獲得した後に、そのノートには何と書いたのでしょうか？

古澤 銀メダルという結果は残しましたが、個人のプレーとしては納得のいく大会ではなかったんです。理想はもっと高く持っていたので。ノートには「チームとしてメダルは獲ったけど、僕の中で満足していない気持ちを忘れないように！」という感じの言葉を羅列していましたね。最低限の仕事はしましたが、もっとチームに貢献する力を身に付けたいです。パリ大会ではしっかりとフィールドの中心に立つ存在でありたいので。

——もし、パリ大会で金メダルを獲ったら、そのときは何と書きたいですか？

古澤 金メダルを獲った感覚を噛み締めつつ、自己満足をしたうえで「やりきったぞ！」と書き残したいですね！